

## 小・中学校 5年目スキルアップ研修

5月23日（火）に今年度の5年目スキルアップ研修がオリエンテーションで始まりました。今年度は、野洲北中1名、中主小2名、祇王小1名、野洲小2名、北野小2名の計5校8名が対象の先生方です。昨年度より人数は少なくなりました。

5年目スキルアップ研修は、これからの教育を担う若手教員の指導力の向上をめざし、各学校でミドルリーダーとして活躍できるよう、野洲市の教育を支える人材育成が目的です。

まず、学校での大半の時間を占める授業において指導力をつけ、子どもに「分かった」「できた」の思いを持たせ、学ぶことに興味を持たせることが重要です。そのためには、課題(学習のめあて)の提示だけでなく、課題を子どもたちと設定していくことで主体的な学習につながります。また、対話的とは、論理的に考えたり他者に分かりやすく表現したりする実社会で活用する能力、つまり汎用的能力の育成につながるものです。深い学びとなるために、なぜグループ学習をする必要があるのかを子どもも教師も分かったうえで取り組んでいかなければ、学習のねらいには到達できるとは言えません。

ふりかえりも学習課題(めあて)に対してどうであったかがなされているのかはもちろん、どのような学び方であったからめあてに到達できたのかを明らかにすることで、これからの学習でどのような視点で考えていけばよいのかが身につけていきます。

これからも続く長い教師生活で自信と意欲をもって授業にあたれるよう、この研修が少しでも授業力向上の役に立てればと考えます。

研修の予定は以下のようになっています。

1 学期	5月23日	・オリエンテーション（全員研修）
	6月 2日	・研究論文の書き方講座（全員研修、他の応募者と合同）悪天候で延期
	6月 5日	・モデル教諭の参観授業と学ぶ会
	）	・授業公開と座談会
	7月14日	
2 学期	12月 1日迄	・研究授業・研究会 【代表者研究授業・協議会（全員研修）含む】
3 学期	1月12日	・研究論文提出〆切
	1月23日	・振り返り（全員研修）

各校においては、日程調整やモデル教諭の推薦等ご協力いただきありがとうございます。モデル教諭には市内6校12名の先生方があがりましたが、日程調整の関係で、中主小1名、篠原小1名、祇王小1名、野洲小1名の計4名の先生方にお世話になることになりました。せっかく授業を見せて、若手育成に協力しようと思っていたのに今回見せていただけなくなった先生方には申し訳ございません。次回もよろしく願いいたします。

モデル教諭の授業では、本時の授業の課題設定や主体的・対話的で深い学びになる手立てやしかけ、グループ学習での取り組みせ方、そして振り返りなどたくさんのことを学ばせていただきたいと考えます。授業後の学ぶ会で、お話を聞かせていただきます。伸びしろのいっぱいある先生のためにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

校内体制が許すなら、他の先生もモデル教諭の授業を観に来てください。勉強になります。

### 受講者の感想)



- ・年間を通して研究を深めていき、精いっぱい取り組みたい。
- ・自分の課題を見つめ、改善し、子どもに合った授業づくりや支援等の質を高めていきたい。
- ・同じ5年目の先生方と出会えてよかった。それぞれが研究したい教科について進めていくので、研修のたびに刺激がもらえそうワクワクします。
- ・授業づくりや実践の中で心掛けていることを論文の形で言語化し、来年度に生かしていきたい。

# 授業のイメージ力 求められるのは教師の意識変革

5年目の先生方だけのことではありません。以下のことは、昨年度もお伝えしたことです。

なぜ、授業が授ける・教える授業から、学び中心の授業へ変わらなければいけないのでしょうか。それは、世の中の変化で求められる人材が大きく変わってきたからです。勤勉でコツコツと取り組むことは、悪いことではありませんが、ロボットに置き換えられる世の中ではもう重要とされていません。主体的に考え、判断し、行動に移せ、周りの人たちと協働的に取組める人間、新しいアイデアを生み出せる人間が求められています。

では、なぜ授業が変わらないと言われているのでしょうか。

一つは、教師の意識の問題です。変わらなければいけないという強い意識の変革がなければ、行動としては表れません。教職員の不祥事が絶えないのもここに問題があるからです。

もう一つは、教師が持つイメージの問題です。過去に自分が受けてきた授業やこれまでの先輩教師の授業のイメージに縛られ、「思い込み」が当事者にとっては思い込みでなかったり、気づいていなかったりすることが多いといえます。「汎用的能力が求められる。自ら考え、判断し、行動したり表現したりする力が必要になる。」などの言葉に触れる機会があっても腑に落ちず、納得せず、新たな変化に向けて授業を改善していこうとする姿は、教師全員に対しては生まれにくいのもかもしれません。

では、どうすれば授業は変わるのでしょうか。

日本の教師は世界でも熱心さでは常に注目される存在です。その誠実な教師にとって、子どもの能動的な学習の姿を目のあたりにすれば教師の意識やイメージは大きく変わり始めます。さらに授業の改善を試み、今までの授業とは異なる子どもの姿に触れることになれば、教師の意識やイメージの変革は革新へと変わっていきます。

もちろん、教師中心から学習者中心に転換を図りながらも、これまでのよい指導法は「継承」されるべきです。「分かりやすい話し方」「板書の書き方」「教材提示の仕方」などがそれにあたります。その点を踏まえつつ「受身・個別」から「探究・協働」のイメージを教師が持つことが大切なのです。

そのために、イメージ力を高める方法が以下のように三つあります。

- ・自ら授業を実践し、多くの人に参観してもらう。
- ・多くの優れた授業実践を参観する。
- ・授業実践について語り合う。



5年目スキルアップ研修が、モデル教員の授業参観と学ぶ会、本人の公開授業と座談会からスタートする意義はここにあります。



「学ぶ」は、「まねる」から、と言われるのも合点がいきます。

モデルの先生だけでなく、5年目スキルアップ研修は、校内のOJTにも組み入れてもらうよう各校にお願いしています。

研究授業の指導案づくりや研究論文の執筆において、先輩の先生方や後輩の先生方と一緒に考える場を持っていただけると、先生方一人一人の授業力向上につながるのと同時に、意識変革の機会となります。もちろん、公開授業や研究授業を参観していただき、アドバイスや質問ご意見をいただくと、授業を行った教師は、取り組んでよかったと思えるはずで、それが職場の絆です。



忙しい、働き方改革を進めなければこれ以上できないと思いたくなることもあるでしょうが、それはそれで取り組んでいきましょう。教師が最もやらなければいけない授業力の向上にむけて二の足を踏んではいけません。校内で、市内や県内の教科部会で授業について語れる教師でいきましょう。

新しい時代の担い手となる子どもには、新しい時代に必要な学ぶ力をつけてもらわなければいけません。それを一緒につくりあげるのが、わたしたち教師です。

保護者や地域の方に、「どんな子どもを育てようと考えておられますか？」とたずねられたとき、これからの時代を担う子どもたちに向けての熱き思いをあなたは語れますか。